

ウナギを追う思い熱く

母校玉野高で講演

ウナギ研究の第一人者として知られる日本大生物資源科学部教授の塚本勝巳さん(68)＝和田出身、東京＝を招いた講演会が12日、母校の玉野高校で開かれた。世界で初めてのウナギの天然卵採取など、貴重な経歴を披露。生徒や保護者、卒業生ら約600人を前にニホンウナギの謎の解明に懸ける思いを語った。

「結果」と強調した。ウナギに興味を持つ理由は「昔から日本人に親しまれている魚の割には謎が多く、自ら分け解き明かしたいという思いに駆られた」と打ち明けた。ウナギの祖先是深海魚だったシーンの観察を挙げ、養殖に向けた技術開発

(近藤哲也)



塚本教授は東京大大学院博士課程を経て、東京大気海洋研究所でウナギを研究。2009年、太平洋・マリアナ諸島西方沖で天然卵の採取に成功し、産卵地点を特定した。著書に「うなぎ 一億年の謎を追う」などがあり、「うなぎ博士」の愛称で親しまれている。

講演では海洋調査の写真を見せながら、研究で分かったニホンウナギの回遊について解説。産卵の場所や時期を特定できた時のことを振り返り、「大海原の中を探す作業なので大変な苦労があった。海流のデータやふ化直後の魚の大きさなどを

基に多くの仮説を立てる結果」と強調した。ウナギに興味を持つ理由は「昔から日本人に親しまれている魚の割には謎が多く、自ら分け解き明かしたいという思いに駆られた」と打ち明けた。ウナギの祖先是深海魚だったシーンの観察を挙げ、養殖に向けた技術開発

母校の玉野高校でウナギの生態について語る塚本さんと、耳を傾ける生徒ら

講演では海洋調査の写真を見せながら、研究で分かったニホンウナギの回遊について解説。産卵の場所や時期を特定できた時のことを振り返り、「大海原の中を探す作業なので大変な苦労があった。海流のデータやふ化直後の魚の大きさなどを